

令和6年度「市長と語り合う会」について（種地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和7年 1月14日（火）	種公民館	19:00～20:00	11	4	15

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、産業経済部長、教育部長、建設部長、秘書課長

2 会の概要

- 開会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政方針の説明（山本市長）
〔現状（課題）〕
 - ・ **地震を始めとする自然災害の脅威と防災対策の重要性**
昨年の1月1日に能登半島地震の起こった地域が、地理的にも社会的にも益田市と状況が似ていることから同様のリスクがあると考えた。益田市には、匹見から美都にかけて、弥栄断層帯があり、最大マグニチュード7.7の地震の可能性があるということなので、そういった地震災害、また豪雨災害等の災害に向けて対策していくことが重要であると考えていた。
 - ・ **地球全体の気温上昇は容赦なく進行しており、脱炭素社会への移行はまさに焦眉の急**
令和6年についても前年を上回る気象統計上最も暑い夏となったが、この地球温暖化の理由とされているのが、温室効果ガスと言われる地球の気温を上昇させる気体、特に二酸化炭素の排出量が、産業革命以降どんどん増えているといったこととされているので、二酸化炭素を出さない生活、すなわち脱炭素社会というものへ切替えていかないといけないということである。
 - ・ **人口減少と高齢化が加速し、中山間地域における活力維持が日を迫るごとに困難となりつつある**
人口減少と高齢化が加速し、中山間地域における活力維持が日を迫るごとに困難となりつつある。そういった地域において、いかに活力を維持していくのか、生活を継続できるようにしていくのかということが大きな課題となっている。
 - ・ **萩・石見空港も大きな岐路**
現在の東京2往復運航は令和7年3月の下旬までということなので、そのあとも継続されるかどうかは、令和6年度中の利用実績によって最終決定されるということであった。大阪線については、令和5年の夏と同じような利用率だと廃止もありうるという状況であった。現状としては、東京線については、羽田発着枠政策コンテストは、恐らく数年間ぐらいの継続になるのではないかと見込んでいる。ただ、今と同じように利用拡大の取組を進め搭乗数を確保しないといずれ2往復運航の廃止になりかねないので、今後もしっかり利用拡大していかないといけないところである。大阪線については、市民の皆様方や企業の方々のご努力により、令和6年夏の搭乗実績は96.8%で目標を大きく上回る実績を上げることができた。これにより、令和7年の夏においても、運航が継続されると考えている。今月中に、令和7年度上期のダイヤが示されるので、そこで確定するが、廃止ということはまずないと見込んでいる。ただ、利用拡大についてはこれからも力を入れて取り組んでいかないといけないところである。

〔重点方針〕

- ・ **災害対策の強化**
能登半島地震から半年たった令和6年7月に、益田市役所の中において防災対策の勉強会を開催

、また10月には、島根県総合防災訓練を島根県と益田市で共同開催した。いずれも、地震災害を想定し対策のための勉強、準備を行った。また水害、豪雨災害についても、川の河床掘削等の事業を国、県に要望していきたい。また災害対策については、行政が取り組むことも大変重要であるが、市民一人一人の自助による防災、また地域の中でも支えあいによる共助の防災も非常に重要であるので、災害に対する、危機感や備えを持っていただくよう啓発に力を入れていきたいと思っている。

・地球温暖化への対応

現在、市役所で使用する自動車をなるべく電気自動車やハイブリッドカーというような二酸化炭素排出量の少ない自動車に切替えていくよう計画している。また、なるべく電気の消費量を減らすために、市で調達する電力を全て再生可能エネルギーで賄ようとしている。それから、建物の照明をLEDに切替えたり、屋根の上に太陽光発電の装置を据えるなど、消費電力の節減にも取り組んでいる。そういった取組を今後とも続けていき、市民の皆様に対しても呼びかけを行っていきたいと考えている。

・中山間地域振興と交通維持

現在、中山間地域振興基本計画の策定を進めており、どのようにすれば、中山間地域の維持、振興を図ることができるかしっかりと盛り込んだ計画をつくりたいと考えている。中山間地域を支援する上でも、自助、共助、公助、この三つのバランスが 大変重要である。特に共助、地域の中での支え合いをしっかりと進めていただけるよう行政がしっかりと支える姿勢が重要であると考えている。益田市では、地域自治組織が設立され運営されているので、地域住民主体で地域運営を担っていただけるようにサポートしていきたい。そういった面を打ち出した計画にしていきたい。交通維持についても、バス路線の廃止といった問題が目の前に迫っており、種線については、3月の15日をもって廃止と石見交通から発表された。市においては、廃止後の代替交通案を策定し、必要な便数を確保して住民の皆様に使っていただける交通代替案を考えたところであったが、地域公共交通会議において全会一致での賛成とならずその案が否決され、3月16日以降、便そのものがなくなってしまうという瀬戸際となっている。代替路線の運行を実現し地域の皆様に御迷惑がかからないように頑張っていきたい。

・自治体DXの推進

DXというのは、デジタルトランスフォーメーションの省略で、これまで人の力とか手作業でやっていた仕事を、デジタルの力を使い、なるべく自動で早く正確に行っていくよう仕事のやり方を置き変えていくというものである。例えば、市役所では、市民の方がお亡くなりになったときの手続を1か所で、なおかつ短時間で済むお悔やみ手続サポートサービスというものを、昨年1月から開始したところである。また、今まで窓口で書類に書いて申請していただいていたものを、窓口で職員が用件を聞き取り発行できるような書かない窓口、それから、なるべく一つの部署で多くの用が済むような回らないサービスといったものに少しずつ切替えている。さらに、今まで市役所や公民館でしか発行できなかった書類を、コンビニで発行できるようにしている。このように新しい技術を使って、市民サービスの向上を図っていきたいと思っている。

・益田市型中高一貫教育の推進

中学校、高校の合わせて6年間の教育の流れを、一貫した流れで行っていかうというものである。現在、益田東高校に委託をして、小学生、中学生の放課後や休みの時に強化授業を行っていただいている。それから、島根大学の学生や松江高専の学生さん等のお借りし、夏休みや冬休み、春休みの小学生、中学生の算数、数学の授業を行っていただくといった算数・数学パワーアップ教室という事を行っている。このようにいろんな方々の力により、益田市の教育の底上げを図っていきたいと考えている。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 地域公共交通について (1)
- ② 人口減少対策について
- ③ 農業情勢について

- ④ 地域公共交通について (2)
- ⑤ 体育館のトイレの修繕について
- ⑥ 地籍調査について
- ⑦ 公民館の共用車の使用について

○ 閉 会 (秘書課長)

令和6年度「市長と語り合う会」

〔会場 種公民館 開催日時：令和7年1月14日（火）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>①-1 地域公共交通について (1)</p> <p>石見交通バスが3月16日で無くなるという事で、12月24日の地域公共交通会議で代替案が通らなかった。3月16日以降の地域交通の運行が間に合うのかということは、地域住民にとって1番不安なところであり、はやい解決を願っている。説明会などの今後のスケジュールについて具体的に踏み込んでお話を頂きたい。</p>	<p>①-1 地域交通協議会で、地元説明のとおりにならなかったという事は大変心苦しく思っている。確定している事としては、1月20日に議会の総務文教調査会で説明し、ご理解を頂き進めていきたいと思っている。現在は、この調査会までに、何とか協議会で賛成してもらえようような修正案を調整、協議しているところであり、もし賛同いただけない場合の手段についても、知恵を絞っていかなければならないと思っている。具体的には申し上げることはできないが、地域公共交通に最終的な責任を持つ自治体として、あらゆる手段をとって地域公共交通が持続できるよう考えて実現させていきたい。</p>
<p>①-2 地域公共交通について (1)</p> <p>なかなか決まらないことは理解するが、域としても協力し、これからもこの地区に住み続けていけるようみんな頑張ろうと思っているので、地元が安心できるよう踏み込んだ回答が出来ないか。3月16日以降も、みんなが困ることがないような形でやっていけるようお願いしたい。</p>	<p>①-2 3月の16日というタイムリミットがあるので、そのときまでに十分な周知期間をもってお知らせできるように、また、地域の皆様方に十分納得頂けるよう準備したいと思っている。3月16日以降、途切れることなく運行できるよう努力していきたい。</p>
<p>② 人口減少対策について</p> <p>種地区も含め益田全体が人口減少、若者が少ないという状態であるが、市としてこの人口減少に歯止めがきかないのか、それとも何か手立てがあるのか。それと、これから先、魅力あるまちづくりをしていけるのか、今現在どうしているのか聞きたい。</p>	<p>② 人口減少には歯止めがかからないと見ているが、何とか地域の活力を維持するためには、特に若い人の減少を食い止めることが必要である。そのため市では、子供の頃から益田に愛着を持って、将来は益田市で活躍しよう思ってもらえるようなふるさと教育、ライフキャリア教育を継続して進めており、その結果、二十歳の集いでアンケート調査をしたところ、将来益田で住みたいなどの質問に対して、肯定的な回答がどんどん増えている。また、高校卒業後の地元の就職率は、48%まで増えている。こうしたことにより、地元での働き手を確保し、地域の担い手としても活躍してもらえるようにしていきたいと思っている。</p>
<p>③ 農業情勢について</p> <p>今、気候変動により大変作物が作りにくい状態となっている。資材等も今までの1.5倍ぐらい高くなっており、やりにくくなってきている。そういう中、何か市としての対策を考えておられるのか。また、相談に行けば、何かより良い考えを得られることができるのかお聞きしたい。</p>	<p>③ 言われるとおり厳しい状況の中、農業で成り立っている中山間地域の維持も難しくなるとも言える。農業については、担い手支援センター等で様々な支援を行っている。また、農家の担い手を募り一つのロットとして消費地で売ってくということに力を入れ、関係機関と連携し地域一丸となって農業振興を進めていきたいと思っている。</p>
<p>④-1 地域公共交通について (2)</p> <p>先日の交通会議は、石見交通さんの反対で没になったと言われたが、ステークホルダーとして代替案を出すべきではないかと思った。今後の交通対策会議は傍聴が可能か。また、</p>	<p>④-1 傍聴については、当日も公開をしているので可能である。代替交通については、利用される住民の利便性と関係者の理解という両方を練りながらつくってきたいと思っている。まず、3月16日以降も途切れなく代替手段が運</p>

市として代替案の始点終点はどのように考えているのか。種から東町キヌヤを經由し病院へ行く4条路線は無いので可能ではないかと思う。あと、他市などで互助による無償での運行が行われているところもあるが、公共交通空白地有償輸送という手段は考えていないか。

④-2 地域公共交通について (2)

益田でやっているのは、ボランティアであり、今後の運転手の確保というのが大変問題である。益田市でどこか1つでもいいので、確固たるモデル地区を作るべきではないかと思う。

⑤ 体育館のトイレの修繕について

体育館のトイレが壊れている。廃校になった後も、共同利用している体育館でありトイレが必要なので、早急に予算をつけていただき治していただきたい。

⑥ 地籍調査について

地籍調査の進捗状況がわからない。種地区は、58災害で地形が変わっているところが多い。よく知っている方が元気なうちに、ある程度の方向性が見えたらありがたい。

⑦ 公民館の共用車の使用について

災害時に限定し公民館長判断で、公民館にある共用車を使用することは出来ないか。これまでもダメと言われても言い続けているが人命に関わることなので何かおこる前に何とか出来ないか。

行できるよう最大の要素として追求している。益田市でも自治会輸送をやっている地域もあるが、誰が運営するかということが非常に困難なところで、採用する事になれば支援をしていきたい。

④-2 交通空白地帯での4条による運行は、なかなか難しいところもある。

⑤ 公民館長が担当課へ言われているようなので確認したい。

⑥ 益田市は、実施率が非常に遅れている。毎年調査を実施しているが、すぐに完了するようなペースで進めるのは、財源的にも人的にも難しい。また、事業を進める上では、高速道路が開通するところ等、事業の対象地を優先的に進めている。なるべく早く市全域で進むように継続的に努力していきたいと思っている。

⑦ 災害等の緊急時に、救急に公民館で使用しないといけないということも考えられる。災害の非常時の事なので、それを想定して線引きするのは難しい。研究課題としたい。